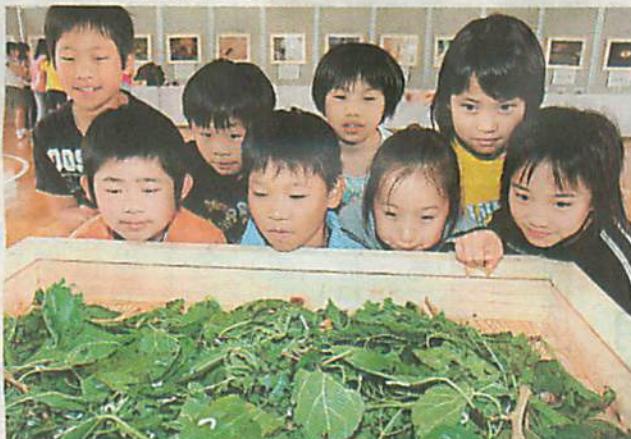


「虫を知ろう！」の展覧会でカイコの幼虫をのぞき込む児童ら



広がる好奇心

思いを俳句にしよう

西条・楠河小学校
ライブ形式教室

松山市在住の俳人夏を教える教室が4日、井いつきさんと小学生に俳句作りの楽しげ

長、124人）で開かれた。

西条市河原津の楠河

小学（長井千代子校）児童に文化活動のす

見て学ぶ虫の生態

松山・桂原小 専門家が説明

ゴキブリなどの害虫をはじめとする虫の生態や、カラス、ハクビ

シンなど有害生物について子どもたちに知つてもらおうと、松山市

東方町の桂原小学校（藤原利親校長、49

7人）で4日、「虫を

知ろう！」と題した展

覧会が開かれた。児童

らは興味津々の様子

で、普段見慣れない生き物に見入っていた。

県内の感染予防・害虫駆除業者12社でつく

る県ペストコントロー

ル協会（伊藤泰一郎会長）が開いた。ペスト

コントロールとは、害虫からの被害を防ぐと

いう意味。同協会は、

6月4日～7月4日を「ムシナシ月間」として毎年啓発活動を行っている。

会場には有害生物とされるアライグマやマムシなどのはく製が並ぶ中、同協会関係者が大きなスクリーンで虫の謎について説明。児童らは「なぜ虫の足は6本なの」「なぜ卵を産むの」と質問を投げかけていた。

注目を集めたのは約400匹の生きているカイコの幼虫。虫眼鏡でのぞき込み、葉を食べる様子を観察している3年の田中萌さん（8）は「不思議な生き物。足が何本もある」と驚いていた。